

お金はキレないからいい

お金は木(気)にならない…「勝手に増えない」=「稼ぐもの」  
という感覚を、幼い頃から培うことが大切です。

大阪電気通信大学 金融経済学部  
山本 利明 教授



「ノー」と言える勇氣

この1年間を回顧する時期になりました。今年の出来事で、私が一番残念に思ったことは、企業の不祥事が相も変わらず絶えなかったことです。企業のトップが頭を下げて謝罪する場面を何度目にしたことでしょうか。

しかも、日本を代表するそうそうたる企業がそうなのですから、事態は深刻です。従業員を苛酷な労働条件に追い込んで自殺に至らした例、品質の程度を偽って取引先を欺いた例、しかるべき検査をしないことが常態化していた例、経営層自らが適切な判断を怠り、会社を存廃の危機に追い込んだ例など枚挙に暇がありません。

企業の社会的責任(CSR)というテーマを研究し始めて20年近くになりますが、企業不祥事が根絶されるという確信を持たないことがあります。近年、コーポレート・ガバナンス(企業統治)

の規範が制定されるなど、制度面での整備が進んでいることは確かです。国連が提唱している持続可能な開発目標(SDGs)を企業も率先して取り込むというのも流行のテーマです。

しかし、企業外の目からすれば、訳の分からない英語ばかりのお題目を並べ立てられても現実味は感じられません。「企業不祥事はなぜ起きるのか」(中公新書。稲葉陽二著)を読むと、閉鎖的な組織風土が根本原因であると論じられています。では、その組織風土をどう変えるのか。答えは抽象的ですが、「ノーと言える勇氣」を持つ人材を育てることと、「異端者」を排除しない組織運営を心掛けることが風土改革の第一歩だと私は考えます。

